



松田権六の仕事場

関連資料展示

会期 2025.3.14-6.22

松田権六の道具

左ケース

- 1：鯨箆（くじらべら）
- 2：中尊寺金色堂の解体修理の時に出てきた平安時代の
刷毛を模して作られた刷毛
- 3：檜の皮で作った箆
- 4：上塗り専用の刷毛
- 5：地塗り専用の刷毛
- 6：細く塗るための刷毛
- 7：小刷毛
- 8：あしらい毛棒（けぼう）・・・蒔絵粉を扱うための筆の一種
- 9：鼈甲製の蒔絵筆用の洗い箆
- 10：大小の針金で作られた「引掻き」用筆
- 11：ぶんまわし・・・コンパス
- 12：犬牙（けんき）・・・柄の先に犬の牙を取り付けた道具
- 13：鯛牙（たいき）・・・柄の先に鯛の牙を取り付けた道具
- 14：各種蒔絵筆
- 15：粉筒（ふんづつ）
- 16：塗師刀（ぬしがたな）
- 17：槍鉋（やりかん）
- 18：彫刻刀や各種の切出小刀

遺愛の品々

- 19：フェルト帽
- 20：腕時計
- 21：筆記用具
- 22：眼鏡

粉筆笥の引出

中央ケース

- 23：粉鎮（ふんちん）
・・・蒔絵用の金銀粉を入れた粉包みを押さえるために用いる重し
- 24：粉匙（ふんさじ）・・・蒔絵用の金銀粉をすくうのに用いる小さじ
- 25：鳥軸製粉筒
- 26：爪盤（つめばん）・・・蒔絵を描く際に漆をのせておく小さなパレット
- 27：あしらい毛棒
- 28：払い毛棒

松田権六と工芸作品にみる花

中央ケース

- 29：松田権六《漆絵梅文椀》1966年
＊6客のうち4客
- 30：松田権六ほか《合作 銘々盆》1939年頃
＊10枚のうち6枚
- 31：松田権六《長生の器》1940年
- 32：松田権六《梅花文一閑張香合》1943年

右ケース

- 33：寺井直次《金胎蒔絵盤 貴久》1996年
- 34：音丸耕堂《堆漆菊文香合》1989年頃
- 35：磯井正美《蒔醬橘花香合》2008年
- 36：赤塚自得《花文と水文香合》制作年不詳
- 37：滝口和男《花を飾り》2008年
- 38：石黒宗麿《赤絵茶碗》1956年頃

蒔絵で使われる素材

- 39：夜光貝
- 40：貝の真珠層部分を薄くはいだもの
- 41：アワビ
- 42：メキシコアワビ
- 43：卵殻（ウズラ）
- 44：象牙
- 45：平文用の各種素材